

2022 年度表彰報告

表 彰 委 員 会

2022 年度の環境科学会 学会賞、学術賞、奨励賞、論文賞は、次の方々に贈呈することが、理事会の議を経て決定致しました。各賞受賞者は、2022 年 9 月 8 日（木）～9 日（金）に電気通信大学及び Online で開催される環境科学会 2022 年会でご講演いただき、表彰式で表彰します。

学会賞（1 名）

藤江 幸一（千葉大学・理事）

表彰課題：持続可能な物質循環とエコロジー工学の発展に関する環境科学への貢献

学術賞（2 名）

小林 剛（横浜国立大学大学院環境情報研究院人工環境と情報部門・准教授）

表彰課題：環境中の化学物質管理に向けたモニタリングとリスク低減技術の開発

松橋 啓介（国立研究開発法人国立環境研究所社会システム領域地域計画研究室・室長，筑波大学システム情報系・教授（連携大学院））

表彰課題：持続可能な社会設計に向けたシナリオ評価と社会への反映

奨励賞（2 名）

竹内 彩乃（東邦大学理学部・講師）

表彰課題：環境問題の解決に向けた人材育成，環境教育に関する研究

森田 稔（高崎経済大学地域政策学部・准教授）

表彰課題：環境経済学手法による環境・エネルギー政策の評価

論文賞（2 編）

橋本扶美*，**，高梨啓和*，中島常憲*，上田岳彦*，門川淳一*，宮本信一***，石川英律**

（* 鹿児島大学大学院理工学研究科，**いであ株式会社環境創造研究所，*** いであ株式会社事業開発本部）

対象論文：イミダクロプリド-ジオール体（(N (1-((6-クロロピリジン-3-イル)メチル)-4,5-ジヒドロキシイミダゾリジン-2-イリデン)ニトラミド)の実環境試料からの検出と急性毒性評価

環境科学会誌，33 巻 5 号 p.126-135(2020)

山下奈穂*，加用千裕**，谷川寛樹*

（*名古屋大学大学院環境学研究科，**東京農工大学農学研究院）

対象論文：木造住宅と森林の木材需給を考慮した炭素ストックのシナリオ分析

環境科学会誌，34 巻 4 号 p.184-195(2021)

[選考経過等]

環境科学会では、学会規程により、環境科学の研究において顕著な業績をあげた研究者に学会賞、学術賞、奨励賞を、また、環境科学会誌に優秀な論文を発表した著者に論文賞を贈呈することが定められています。上記の 2022 年度各賞受賞者の選考経過は以下のとおりです。

表彰規程に従い、環境科学会 Web サイトに 2021 年 12 月 24 日を締め切りとして、各賞受賞候補者の推薦

依頼を会告として告示しました。その結果を受けて、2022年1月31日に表彰委員会を開催して各賞受賞候補者を選考し、その選考経過を2月9日に開催された理事会に報告し、理事会の議を経て各賞受賞者が正式に決定されました。

2004年度からは、学会賞受賞者には表彰式後に記念講演を、学術賞受賞者には年会において受賞記念シンポジウムを企画していただき、その中で受賞記念講演を行っていただくよう依頼することとしています。また、奨励賞および論文賞の受賞者についても、年会の関連する一般研究発表あるいはシンポジウムの中でそれぞれ受賞記念講演を行っていただくよう依頼することとしており、現在、年会委員会と協議の上、準備中です。

会員の皆様の年会への多数ご参加をお待ちしています。

最後に、2023年度表彰については、受賞候補者の推薦を2022年末締切として会員の皆様にお願ひする予定であることを記して、表彰委員会報告と致します。

[2022年度表彰委員会]

委員長	大塚 直	早稲田大学 教授
理事	中井 里史	横浜国立大学 教授
	田崎 智宏	国立環境研究所
幹事	立花 潤三	富山県立大学 講師
	村上 道夫	大阪大学感染症総合教育研究拠点 特任教授
委員	加藤 博和	名古屋大学 教授
	小林 憲弘	国立医薬品食品衛生研究所
	沼田 大輔	福島大学 准教授
	肱岡 靖明	国立環境研究所
	棟居 洋介	東京工業大学 助教
	永淵 修	福岡工業大学 客員教授
	馬場 健司	東京都市大学 教授

[2022年度の各賞受賞者]

学会賞

受賞者氏名：藤江 幸一（ふじえ こういち）

表彰課題：持続可能な物質循環とエコロジー工学の発展に関する環境科学への貢献

所属・職：千葉大学・理事

専門分野：環境化学工学，環境技術・環境負荷低減，資源循環工学，持続可能システム

略 歴：

1974年 新潟大学工学部化学工学科卒業

1980年 東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了（工学博士）

1980年 東京工業大学資源化学研究所・助手
（1983～1985年 オハイオ州立大学博士研究員）

1988年 横浜国立大学工学部・助教授

1994年 豊橋技術科学大学工学部・教授

2007年 横浜国立大学大学院環境情報研究院・教授

2008年 同上安心・安全の科学研究教育センター長（～2013年）

2010年 日本学術振興会学術システム研究センター・主任研究員（併任，～2013年）

2014年 横浜国立大学先端科学高等研究院・副研究院長

2017年 横浜国立大学定年退職。同，先端科学高等研究院・客員教授

2021年 千葉大学・理事（研究担当，学術研究・イノベーション推進機構長を兼務）

本学会では，評議員（1999～2000年度），理事（2001～2010年度のうち4期），副会長（2013～2018年度ののうち3期），会長（2019～2020年度）、顧問（2021年度）を歴任。

表彰理由：

藤江幸一氏は，化学工学を専攻し工学博士号を取得されて以来，一貫して水資源をはじめとした物質の循環利用に関する技術やシステムの開発と評価に関する研究をされてきた。水資源や物質の適正な循環利用に関する取り組みは，現在では世界各国で重要課題に挙げられており，一連の研究活動はまさに当該研究分野を先導するものであった。

藤江氏の特筆すべき功績は，化学工学的な研究アプローチを，多様な要因が複雑に絡み合う環境問題の解決に応用し，持続可能社会の実現に向けた研究を推進してきた点である。近年に至って，工学的手法と社会科学的手法はようやく融合されつつあるが，同氏は持続可能社会の実現に向けて長期にわたって先駆的な役割を担ってこられた。循環型社会の構築やその推進に直結するバイオマス利活用技術・システムの設計・評価に関しても，世界をリードする数多くの優れた研究論文を発表され，関係省庁による各種委員会等にも数多く参画してこられた。これらの実績によって，国内にとどまらず中国，東南アジア等を中心とした海外から高い評価を受けている。研究成果は数多くの成書としても出版され，工学分野にとどまらず，農学分野や社会科学分野の研究者，専門家，学生等に対して，化学工学を基盤とした研究アプローチによる環境問題の理解促進と解決方策探索の重要性を教示している。

上記した一連の研究は，持続可能な社会への道筋を探索する手法を示したものであり，他分野においてもその成果が注目されている。このように，藤江幸一氏の研究業績は，環境科学研究の発展に大きく貢献してきたことは明らかである。さらに，環境科学会の運営においても，重要な役割を果たし，理事を4期8年間，副会長を3期6年間，会長を1期2年間務められ，会の発展を支えてこられた。このような氏の業績は，環境科学ならびに環境科学会の発展に貢献した者に与えられる環境科学会学会賞にふさわしいものと評価できる。

主要業績：

【研究論文等】

1. J R Amelia, Suprihatin Suprihatin, Nastiti Siswi Indrasti, Udin Hasanudin, Koichi Fujie, Effects of



藤江 幸一

（ふじえ こういち）

- Treated Palm Oil Mill Effluent Application on the Soil Microbial Community Structure and Oil Palm Plantation Productivity, *Journal of Water and Environment Technology* 15(3), 77-85(2017)
2. 金子信博, 三浦季子, 南谷幸雄, 荒井見和, 藤江幸一, 一次生産の持続可能性のための土壌管理—熱帯プランテーションにおける保全管理の効果—, *環境科学会誌*, 30(2), 85-87(2017)
 3. 金井亮太, 大和田健登, 藤江幸一, 橘隆一, 塚本真大, 後藤尚弘, Udin Hasanudin, キャッサバの加工および残渣・排水の再資源化における物質フロー分析, *環境科学会誌*, 30(2), 57-66(2017)
 4. Toshiko Miura, Ainin Niswati, I. G. Swibawa, Sri Haryani, Heru Gunito, Miwa Arai, Kenta Yamada, Satoshi Shimano, Nobuhiro Kaneko, Koichi Fujie, Shifts in the composition and potential functions of soil microbial communities responding to a no-tillage practice and bagasse mulching on a sugarcane plantation, *Biology and Fertility of Soils*, 52(3), 307-322(2016)
 5. Toshiko Miura, Kento Owada, Kazuya Nishina, Muhajir Utomo, Ainin Niswati, Nobuhiro Kaneko, Koichi Fujie, The Effects of Nitrogen Fertilizer on Soil Microbial Communities Under Conventional and Conservation Agricultural Managements in a Tropical Clay-Rich Ultisol, *Soil Science*, 181(2), 68-74(2016)
 6. Toshiko Miura, Ainin Niswati, I. G. Swibawa, Sri Haryani, Heru Gunito, Satoshi Shimano, Koichi Fujie, Nobuhiro Kaneko, Diversity of Fungi on Decomposing leaf Litter in a Sugarcane Plantation and Their Response to Tillage Practice and Bagasse Mulching: Implications for Management Effects on Litter Decomposition, *Microbial Ecology*, 70(3), 646-658(2015)
 7. U. Hasanudin, R. Sugiharto, A. Haryanto, T. Setiadi, K. Fujie, Palm oil mill effluent treatment and utilization to ensure the sustainability of palm oil industries, *Water Science and Technology*, 72(7), 1089-1095(2015)
 8. Saori Miho, Takashi Kameya, Takeshi Kobayashi, Koichi Fujie, Detection of Japanese PRTR Chemicals in a River Affected by Effluent from Industrial and Sewage Facilities, *Journal of Water and Environment Technology*, 13(1), 25-35(2015)
 9. 加藤康弘, 奥田健介, 村田直樹, 藤江幸一, オゾン/過酸化水素処理における制御因子の検討, *土木学会論文集 G(環境)* 70(7), 95-102(2014)
 10. 佐伯孝, 藤江幸一, 大門裕之, 炭素繊維および炭素繊維強化樹脂への水熱反応の適用, *環境科学会誌*, 27(2), 84-92(2014)
 11. Shuichi Tamura and Koichi Fujie, Material Cycle of Agriculture on Miyakojima Island: Material Flow Analysis for Sugar Cane, Pasturage and Beef Cattle, *Sustainability*, 6, 812-835(2014)
 12. Yan Sun, Huang Huang, Ying Sun, Chao Wang, Xiao-Lei Shi, Hong-Ying Hu, Takashi Kameya, Koichi Fujie, Ecological risk of estrogenic endocrine disrupting chemicals in sewage plant effluent and reclaimed water, *Environmental Pollution* 180, 339-344(2013)
 13. S.Tamura, R.Maeda, K. Fujie, An Evaluation of the Cattle Raising Business in Miyakojima Island: Material Flow Analysis about Four Types of Cattle Raising, *The International Journal of Environmental Sustainability*, 9, 7-19(2013)
 14. 蒲原弘継, Udin Hasanudin, Anugerah Widiyanto, 橘隆一, 熱田洋一, 後藤尚弘, 藤江幸一, 大門裕之, タピオカ澱粉生産におけるバイオガス利用による温室効果ガス排出量の削減効果, *化学工学論文集*, 38(5), 299-304(2012)
 15. 蒲原弘継, 藤江幸一, 熱帯プランテーション地域におけるバイオマス利活用による温室効果ガス排出量削減, *水環境学会誌*, 32(2), 69-72(2009)
 16. Hideto Tsuji, Takashi Saeki, Takayuki Tsukegi, Hiroyuki Daimon, Koichi Fujie, Comparative study on hydrolytic degradation and monomer recovery of poly(L-lactic acid) in the solid and in the melt, *POLYMER DEGRADATION AND STABILITY*, 93(10), 1956-1963(2008)
 17. 蒲原弘継, 山口瞬, 橘隆一, 後藤尚弘, 藤江幸一, 家庭廃食用油の回収可能量の推計とバイオディーゼル燃

料化におけるライフサイクル分析, 日本 LCA 学会誌, 4(4), 318-323(2008)

18. 塩見達郎, 立花潤三, 中澤祥二, 後藤尚弘, 藤江幸一, 建設廃棄物に含まれる塩化ビニル樹脂の地域内リサイクルのライフサイクル評価, 環境システム研究論文集, 36, 491-497(2008)
19. Hideto Tsuji, Yoshiko Yamamura, Tomoyuki Ono, Takashi Saeki, Hiroyuki Daimon, Koichi Fujie, Hydrolytic Degradation and Monomer Recovery of Poly(butylene succinate) and Poly(butylene succinate/adipate) in the Melt, *Macromolecular Reaction Engineering*, 2(6), 522-528(2008)
20. 後藤尚弘, 大門裕之, 蒲原弘継, 藤江幸一, バイオマスエネルギー利活用システムの設計と評価, 資源環境工学, 55(2), 103-108(2008) など多数

【書籍】

1. 岡田光正, 藤江幸一, 環境問題のとらえ方と解決方法, 放送大学教育振興会, NHK 出版(2017)
2. 坂田昌弘編著, エキスパート応用化学テキストシリーズ・環境化学, 第 1 1 章 環境の保全を担当, 講談社サイエンティフィック(2015)
3. 岡田光正, 藤江幸一, 他 3 名, 新訂環境工学, 放送大学教育振興会, NHK 出版 (2013)
4. 藤江幸一, よくわかる水リサイクル技術, オーム社(2012)
5. 国連大学ゼロエミッションフォーラム編, 進化するゼロエミッション活動 - 低炭素社会へシフトするための最強のコンセプト -, 藤江幸一, 「プランテーションでのバイオマス利活用の促進と課題」を担当, (株)海象社 (2010)
6. 藤江幸一編著, 生態恒常性工学 - 持続可能な未来社会のために -, コロナ社(2008)
7. 鈴木基之, 藤江幸一, 他 11 名, 改訂版「環境工学」, 「第 12 章資源循環(4)バイオマス・プランテーション」を担当, 放送大学教育振興会 (2007)
8. 安井至, 藤江幸一, 他 7 名, 環境科学-人間と地球の調和をめざして -, 第 10 章:「ゼロエミッションは達成できるか」を担当, 東京化学同人(2004)
9. 鈴木基之, 中西準子, 真柄泰基, 大垣眞一, 藤江幸一, 他 8 名, 環境工学, 放送大学教育振興会, NHK 出版(2003)
10. 笠倉忠夫, 藤江幸一, 他 8 名, エコテクノロジー入門, 朝倉書店 (2001) など多数。

学術賞

受賞者氏名：小林 剛（こばやし たけし）

表彰課題：環境中の化学物質管理に向けたモニタリングとリスク低減技術の開発

所属・職：横浜国立大学大学院環境情報研究院人工環境と情報部門・准教授

専門分野：環境安全工学，化学物質管理，土壌・地下水保全

略 歴：

1993年 横浜国立大学 工学部 物質工学科卒業

1995年 横浜国立大学 工学研究科 物質工学専攻修了

1995年 神奈川県環境部大気保全課・技師

1997年 横浜国立大学工学部・助手

2001年 横浜国立大学大学院工学研究院・助手

2004年 横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター・助手

2005年 横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター・助教授

2007年 横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター・准教授

2009年 横浜国立大学大学院環境情報研究院・准教授（現職）

表彰理由：

小林剛氏は、環境中の化学物質による環境リスクの効率的な評価・低減技術において、毒性評価やモニタリング、動態評価といった観点から様々な研究に取り組んできた。また化学物質による健康リスクに関しても多くの研究業績を残している。近年では、そのなかでも土壌汚染物質のリスクに基づく浄化や管理に関する研究に特に力を入れて取り組んでいる。これらの研究の成果は、環境科学会誌を含む多数の論文にまとめており、環境化学および環境工学分野の学術的発展に大いに資するものである。また、環境科学会の理事に加えて、多数の委員会の委員も務め、研究成果と社会実装の両軸を兼ねた活動を進めている。このような小林剛氏の研究業績と活動は、環境科学分野において特に優れた研究業績を挙げた者に与えられる環境科学会学術賞にふさわしいものと評価できる。

主要業績：

【研究論文等】

1. Yuji Yamazaki, Gaku Kitamura, Xiaowei Tian, Ichiro Suzuki, Takeshi Kobayashi, Takaaki Shimizu, Daisuke Inoue, Michihiko Ike, Temperature dependence of sequential chlorinated ethenes dechlorination and the dynamics of dechlorinating microorganisms, *Chemosphere*, Volume 287(1), 1-9, 2022.
2. 小林剛, 末継淳, 李京, クロロエチレン等の揮発性有機塩素化合物の不飽和土壌への吸着・吸収特性と土壌中挙動への定性的影響, 環境情報科学学術研究論文集, 35, 102-106, 2021.
3. Yuji Yamazaki, Ai Hasegawa, Xiaowei Tian, Ichiro Suzuki, Takeshi Kobayashi, Takaaki Shimizu, Daisuke Inoue, Michihiko Ike, Effect of elevated temperature on cis-1,2-dichloroethene dechlorination and microbial community structure in contaminated soils—A biostimulation approach, *Journal of Environmental Chemical Engineering*, 8(2), 103682, 2020.
4. 三保紗織, 亀屋隆志, 小林剛, 藤江幸一, 河川水モニタリングにおける GC-MS AIQS-DB 法の同定定量精度の評価, 環境科学会誌, 33(5), 90-102, 2020.
5. 古川靖英, 小林剛, 保高徹生, 本藤祐樹, 藤江幸一, 揮発性有機塩素化合物汚染における土壌汚染対策技術選定時のサステナブルアプローチの有効性検討と従来手法との比較, 土木学会論文集 G(環境), 74(4), 152-164, 2018.
6. Binh Nguyen Thi Lan, Takeshi Kobayashi, Atsushi Suetsugu, Xiaowei Tian, Takashi Kameya, Estimating the Possibility of Surface Soil Pollution with Atmospheric Lead Deposits Using the ADMER Model, *Sustainability*, 10(3), 720, 12pages (2018)



小林 剛
(こばやし たけし)

7. Yuichi Miyake, Masahiro Tokumura, Yuta Iwazaki, Qi Wang, Takashi Amagai, Yuichi Horii, Hideyuki Otsuka, Noboru Tanikawa, Takeshi Kobayashi, Masahiro Oguchi, Determination of hexavalent chromium concentration in industrial waste incinerator stack gas by using a modified ion chromatography with post-column derivatization method, *Journal of Chromatography A*, Vol.1502, 24-29, 2017.
 8. 小林剛, 保高徹生, 朝日ちさと, 上原励, 大瀧友里奈, 小木曾裕, リスクを考慮した土壌汚染対策の促進に向けて, *環境情報科学*, 46(2), 48-51, 2017.
 9. Yasuhide Furukawa, Kazuhiro Mukai, Keisuke Ohmura, Takeshi Kobayashi, Improvement of Slant Drilling Well for In-situ Remediation of Contaminants under the Structure, *Environ Sci Pollut Res Int*, 24(7), 6504-6511, 2017.
 10. Yuichi Miyake, Takeshi Kobayashi, Takashi Kameya, Satoshi Managaki, Takashi Amagai, Shigeki Masunaga, Comparison study on observed and estimated concentrations of perfluorooctane sulfonate using a fate model in Tokyo Bay of Japan, *Journal of Environmental Science and Health Part A-Toxic/Hazardous Substances & Environmental Engineering*, 49(7), 770-776, 2014.
 11. 小林剛, 上田裕之, 高橋ゆかり, 亀屋隆志, 大気へ排出された粒子状物質成分の沈着による土壌汚染の可能性の検討, *環境情報科学論文集*, 27, 233-236, 2013.
 12. 古川靖英, 保高徹生, 大村啓介, 小林剛, 揮発性有機塩素化合物実土壌汚染サイトを題材とした簡便な費用ベースのサステナブルアプローチ手法の試み, *土木学会論文集 G(環境)*, 69(7), 461-471, 2013.
 13. Yuyu Liu, Takeshi Kobayashi, Yukari Takahashi, Takashi Kameya, Kohei Urano, A simple simulation of adsorption equilibrium of Pb(II) on Andosols in the presence of dissolved humic substances for monitoring soil contamination, *Journal of Environmental Science and Health Part A*, 48, 1694-1699, 2013.
 14. 高橋ゆかり, 小林剛, 亀屋隆志, 上田裕之, 汚染土壌の有害無機汚染物質溶出試験結果の変動要因となりうる土壌 pH 影響の解析, *環境情報科学*, *環境情報科学論文集*, 26, 49-54, 2012.
 15. 上田裕之, 小林剛, 亀屋隆志, 高橋ゆかり, 多様な有機化合物の気相経由での油脂および脂肪性食品への移行経路の重要性のスクリーニング評価, *環境情報科学*, *環境情報科学論文集*, 26, 79-82, 2012.
 16. 小林剛, 松島由佳, 山岸芳樹, 亀屋隆志, 高橋ゆかり, 浦野紘平, 液体状テトラクロロエチレンの土壌中での保持・地下浸透挙動の解析, *土木学会論文集 G (環境)*, 67(7), III_409-415, 2011.
 17. Yuichi MIYAKE, Takeshi KOBAYASHI, Kosuke INABA, Izumi WATABE, Naho KASUYA, and Takashi KAMEYA, Comparison of observed and estimated concentrations of volatile organic compounds using a Gaussian dispersion model in the vicinity of factories: An estimation approach to determine annual average concentrations and human health risks, *Journal of Environmental Science and Health, Part A*, Vol.45, 527-533, 2010.
 18. 小林剛, 三宅祐一, 亀屋隆志, 東信行, 畠山周作, 多様な化学物質の土壌・地下水汚染による人への曝露可能性のスクリーニング手法の提案, *環境システム研究論文集*, 37, 495-500, 2009.
 19. 高梨ルミ, 亀屋隆志, 小林剛, 糸山景子, 浦野紘平, 人の健康保護を考えた自主管理のための環境管理参考濃度の提案と PRTR 対象物質への適用, *環境科学会誌*, 18(2), 71-83, 2005.
 20. 高梨ルミ, 浦野紘平, 小林剛, 人に対する長期毒性の確度情報による化学物質のランク分け方法, *環境科学会誌*, 15(1), 23-33, 2002.
 21. 浦野紘平, 高梨ルミ, 小林剛, 人に対する長期毒性の定量的情報による化学物質のランク分け方法, *環境科学会誌*, 14(1), 27-38, 2001.
- など多数

【書籍】

1. 分担執筆, *都市科学辞典*, 春風社, 2019. (「公害対策の歴史」「土壌汚染と対策技術」を分担)

2. 分担執筆, 水環境の事典, 朝倉書店, 2021. (「土壌と地下水汚染の実態と修復」を分担)
3. 分担執筆, 安全工学便覧 (第4版), コロナ社, 2019. (「土壌汚染」「土壌汚染対策」等を分担)
4. 分担執筆, 環境問題のとらえ方と解決方法, 放送大学教育振興会, 2017. (7章「水・地下水・土壌環境保全技術」を分担)
5. 分担執筆, Heavy Metal Contamination of Soils - Monitoring and Remediation, Springer, 2015. (Chapter 5 「The adsorption equilibrium of Pb and Cd on several soils in various pH solutions, or in the presence of dissolved humic substances」を分担)
6. 分担執筆, 廃棄物安全処理・リサイクルハンドブック, 丸善株式会社 2010. (「リスクコミュニケーション」を分担)

受賞者氏名：松橋 啓介（まつはし けいすけ）

表彰課題：持続可能な社会設計に向けたシナリオ評価と社会への反映

所属・職：国立研究開発法人国立環境研究所社会システム領域地域計画研究室・室長，筑波大学システム情報系・教授（連携大学院）

専門分野：環境政策，脱炭素まちづくり

略 歴：

1994年 東京大学工学部都市工学科 卒業

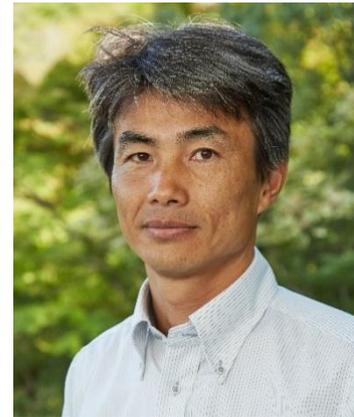
1996年 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 修了

1996年 国立環境研究所 研究員（現職）

2001年 博士（工学）取得

2008年 筑波大学大学院システム情報工学研究科・准教授（連携大学院）
（兼務）（現職）

2012年 東京大学大学院新領域創成科学研究科・客員准教授（連携講座）
（兼務）



松橋 啓介
（まつはし けいすけ）

表彰理由：

松橋啓介氏は、持続可能な社会・都市の設計に関する研究や資源・エネルギー、環境、経済など多面的な視点から将来社会の在り方について研究に取り組んできた。特に、持続可能な都市交通やまちづくりに加えて、近年では脱炭素社会の設計やその社会実装に関して顕著な研究業績がある。これらの研究成果は、国内外の多数の学術雑誌で報告しているだけでなく、セミナーなどでの社会発信にも積極的である。環境科学会の理事のほか、学会や行政の委員も多数務め、科学知の社会への還元という観点でも大きな貢献を果たしてきた。このように、科学的知見と市民対話を踏まえた政策決定に関する研究者として、地に足のついたゆるぎない活動を展開している。松橋啓介氏の研究業績と活動は、環境科学分野において特に優れた研究業績を挙げた者に与えられる環境科学会学術賞にふさわしいと評価できる。

主要業績：

【研究論文等】

1. 松橋啓介, 陳鶴, 有賀敏典, 金森有子, 持続可能な交通まちづくり政策への社会的支持に関する考察, 環境科学会誌, 2020年 33 巻 1 号 1-10.
2. 花崎直太, 高橋潔, 脇岡靖明, 日下博幸, 飯泉仁之直, 有賀敏典, 松橋啓介, 三村信男, 日本の温暖化影響・適応策評価のための気候・人口・土地利用シナリオ (第2版), 環境科学会誌, 2014年 27 巻 6 号 362-373.
3. 松橋啓介, 村山麻衣, 増井利彦, 原澤英夫, 持続可能社会への転換に向けた叙述シナリオの構築に関する試みー生産活動の観点からー, 環境科学会誌, 2013年 26 巻 3 号 226-235.
4. 松橋啓介, 森口祐一, 寺園淳, 田辺潔, 問題領域と保護対象に基づく環境影響総合評価の枠組み, 環境科学会誌, 2000年 13 巻 3 号 405-419.
5. 金昞敏, 松橋啓介, 石河正寛, 有賀敏典, 崔文竹, 都道府県別人口における年齢・時代・コーホート効果の分析, 都市計画論文集, 56(3), 1282-1288, 2021.
6. 金昞敏, 松橋啓介, 石河正寛, 有賀敏典, 運転免許保有者数と運転者数の推移における年齢・時代・コーホート効果の分析と将来推計, 土木学会論文集 G(環境), 77(6), II_227-II_234, 2021.
7. K. Honjo, K. Gomi, Y. Kanamori, K. Takahashi, K. Matsuhashi, Long-term projections of economic growth in the 47 prefectures of Japan: An application of Japan shared socioeconomic pathways, Heliyon, 7, e06412, 2021.
8. 金昞敏, 松橋啓介, 石河正寛, 有賀敏典, 第4次メッシュレベルの人口変動に及ぼす年齢・時代・コーホート効果の分析, 都市計画論文集, 55(3), 1121-1127, 2020.
9. 石河正寛, 陳鶴, 松橋啓介, 金森有子, 有賀敏典, 住宅と自動車の利用に伴うメッシュ別 CO2 排出量の推計と考察, 土木学会論文集 G, 76(5), II_199-II_207, 2020.

10. Chen, He, Matsuhashi, Keisuke, Takahashi, Kiyoshi, Fujimori, Shinichiro, Honjo, Keita, Gomi, Kei, Adapting global shared socio-economic pathways for national scenarios in Japan, SUSTAINABILITY SCIENCE, 2020.
11. 越智雄輝, 藤森真一郎, 高橋潔, 松橋啓介, 日本を対象とした将来シナリオのデータベース化とエネルギー需給・CO2 排出構造も4注目したその特徴の分析, 土木学会論文集G(環境), 75(5), 65-72, 2019.
12. 石河正寛, 松橋啓介, 金森有子, 有賀敏典, 市町村別家庭部門 CO2 排出量推計モデルの改良 - 欠測データ処理と非線形回帰の適用 -, 土木学会論文集G(環境), 75(5), I_89-I_98, 2019.
13. 石河正寛, 松橋啓介, 金森有子, 有賀敏典, 家庭 CO2 統計に基づく全国 10 地方別の排出要因分析と市町村別世帯あたり排出量の推計 — 全国試験調査結果を用いて —, 土木学会論文集G(環境), 74(6), II_193-II_201, 2018.
14. Daisuke Goto, Kayo Ueda, Chris Fook Sheng Ng, Akinori Takami, Toshinori Ariga, Keisuke Matsuhashi, Estimation of excess mortality due to long-term exposure to PM2.5 in Japan using a high-resolution model for present and future scenarios, Atmospheric Environment, Vol.140, 320-332, 2016.
15. 松橋啓介, 米澤健一, 有賀敏典, 地方公共団体における自動車 CO2 排出量の動向を踏まえた削減目標の検討に関する研究, 都市計画論文集, Vol.46(3) 805-810, 2011.
16. Kudoh Yuki, Matsuhashi Keisuke, Kondo Yoshinori, Kobayashi Shinji, Moriguchi Yuichi, Statistical analysis of fuel consumption of hybrid electric vehicles in Japan, World Electric Vehicle Journal, Vol.1(1) 142-147, 2007.
17. Noriyuki Suzuki, Kaori Murasawa, Takeo Sakurai, Keisuke Nansai, Keisuke Matsuhashi, Yuichi Moriguchi, Kiyoshi Tanabe, Osami Nakasugi, Masatoshi Morita, Yagita Hiroshi, Geo-referenced multimedia environmental fate model (G-CIEMS): Model formulation and comparison to the generic model and monitoring approaches, Environmental Science and Technology, Vol.28(21) 5682-5693, 2004.
18. Yuki Kudoh, Yoshinori Kondo, Keisuke Matsuhashi, Shinji Kobayashi, Yuichi Moriguchi, Current status of actual fuel-consumptions of petrol-fuelled passenger vehicles in Japan, Applied Energy, Vol.79(3) 291-308, 2004.

【書籍】

1. 松橋啓介「乗用車起因のCO2 排出量とメッシュ人口との関係」『運輸部門の気候変動対策』室町泰徳 編著, 109-120 (2020), 成山堂書店 [分担]
2. 松橋啓介「コンパクトシティと環境」『コンパクトシティを考える』浅見泰司, 中川雅之編著, 120-134 (2018) プロGRESS [分担]
3. 松橋啓介「世帯エネルギー消費に関する社会的・政策的課題」『市民生活行動学』土木学会編, 83-86 (2015), 丸善 [分担]
4. 松橋啓介「運輸部門からのCO2 排出量の中長期的削減に向けた対策」『低炭素都市』大西隆, 小林光編著, 82-103(2010), 学芸出版社 [分担]
5. 松橋啓介「車のかしこい使い方」『ココが知りたい地球温暖化』独立行政法人国立環境研究所 地球環境研究センター編著, 163-167(2009), 成山堂書店 [分担]
6. 森口祐一, 松橋啓介, 工藤祐揮「低炭素社会の交通」『日本低炭素社会のシナリオ』西岡秀三, 118-153 (2008), 日刊工業新聞社 [分担]
7. 松橋啓介「比較リスク評価」『環境リスクマネジメントハンドブック』中西準子, 蒲生昌志, 岸本充生, 宮本健一, 394-402 (2003), 朝倉書店 [分担]
8. 森口祐一, 松橋啓介「比較リスクによるリスク削減戦略」『リスク学辞典』日本リスク研究学会, 316-317 (2000), TBSブリタニカ [分担]

奨励賞

受賞者氏名：竹内 彩乃 (たけうち あやの)

表彰課題：環境問題の解決に向けた人材育成，環境教育に関する研究

所属・職：東邦大学理学部・講師

専門分野：環境政策、環境負荷・リスク評価・管理

略歴：2012年 東京工業大学総合理工学研究科博士後期課程 修了
2012年 エコセンターNRW ジュニアコンサルタント
2013年 PN Power Plants AG プロジェクトマネージャー
2015年 名古屋大学大学院環境学研究科 助教
2016年 名古屋大学大学院環境学研究科 招へい教員
2016年 東邦大学理工学部 講師 (現在に至る)
2016年 一般社団法人 環境政策対話研究所 研究員 (現在に至る)



竹内 彩乃

(たけうち あやの)

表彰理由：

竹内彩乃氏は、環境問題や地域課題の解決におけるステークホルダーに対する環境教育やその解決に重要な役割を担う人材の育成に関する研究に取り組んでいる。近年では大学が取り組む地域課題への実践的な取り組みを通して、環境教育の在り方や地域との連携を円滑に行うための仕組みづくりに関する研究を行っている。これらの研究成果は、環境科学会誌をはじめ、国内外の学術雑誌にも論文が掲載されており、高い評価を得ており、環境科学の分野での社会的・学術的発展に大きく貢献している。

主要業績：

【業績課題に係わる主要論文】

1. 竹内 彩乃, 社会へつながる環境人材育成—東邦 Ecolution の活動を事例に一, 環境科学会誌, 33, 64-69, 2020.
2. 竹内 彩乃, 大学の省エネ活動を実践的な環境教育の場—東邦エコリユージョンの活動を事例に—, 環境科学会誌, 30, 357-364, 2017.

【研究論文等】

3. Takeuchi Ayano, A survey of methods for evaluating mini-publics, Asia-Pacific of Regional Science, 5, 1-19, 2021.
4. 竹内 彩乃, 石井 涼子, 陸上風力発電事業における隣接自治体との事前調整に関する一考察, 環境情報科学論文集, 34, 276-280, 2020.
5. 竹内 彩乃, 柳下 正治, 気候変動と熟議型人材育成プログラムの開発 (炭素中立社会へのトランジション: 移行管理の課題), 計画行政 (Planning and public management) 42(4), 27-32, 2019.
6. 竹内 彩乃, 個人の意見変化に着目した熟議デザインの評価, 環境情報科学論文集, 32, 79-82, 2018.
7. Takeuchi Ayano, Risk Communication for Japanese Offshore Wind Project-Case Study in Murakami City-, 2016.
8. 竹内 彩乃, 錦澤 滋雄, 原科 幸彦, 協働推進のための人材育成プログラムの効果: ドイツ・ニュルティンゲン市を事例に, 計画行政, 36(2), 29-38, 2013.
9. 竹内 彩乃, 井関 崇博, 村松 晶子, 協働推進における独立型推進組織の役割に関する研究-神奈川県大和市を事例として-, 計画行政, 34(3), 99-107, 2011.

受賞者氏名：森田 稔（もりた みのる）

表彰課題：環境経済学手法による環境・エネルギー政策の評価

所属・職：高崎経済大学地域政策学部・准教授

専門分野：環境経済，環境政策

略歴：2014年 上智大学大学院経済学研究科博士後期課程 修了

2014年 早稲田大学環境と貿易研究所（現：環境経済・経営研究所）次席研究員

2015年 上智大学経済学研究科 特別研究員

2016年 早稲田大学政治経済学術院 助教

2018年 高崎経済大学地域政策学部 准教授（現在に至る）



森田 稔

（もりた みのる）

表彰理由：

森田稔氏は、地球温暖化抑制におけるグリーン開発メカニズムの効果的運用、環境税が産業・家計に与える影響評価、リベートプログラムが消費者行動に与える影響評価などに取り組んでいる。近年では、家庭部門におけるエネルギー削減の重要性に着目し経済的要因がエネルギー削減に及ぼす効果について多角的に研究を行っている。これらの研究成果は、環境科学会誌をはじめ、国内外の学術雑誌にも論文が掲載されており、高い評価を得ており、環境科学の分野での社会的・学術的発展に大きく貢献している。

主要業績：

【業績課題に係わる主要論文】

1. 森田稔， 家庭部門における省エネ行動の実態と情報的手段の有効性に関する検証：震災以前の埼玉県草加市でのサーベイデータを用いた分析，環境科学会誌，30，161-170，2017.
2. 杉野誠，有村俊秀，森田稔，地球温暖化対策税による産業・家計への影響：東京都税制調査会での検討案の評価，環境科学会誌，25，126-133，2012.

【研究論文等】

3. Minoru Morita, Kazuyuki Iwata, Toshi H. Arimura, The rebound effect in an air conditioner usage: an empirical analysis of Japanese individuals' behaviors, Environmental Economics and Policy Studies, 24(1), 99-117, 2022.
4. Makoto Sugino, Minoru Morita, Kazuyuki Iwata, Toshi. H. Arimura Multiplier impacts and emission reduction effects of Joint Crediting Mechanism: analysis with a Japanese and international disaggregated input-output table, Environmental Economics and Policy Studies, 19(3), 635-657, 2017.
5. Nils Simon, Toshi H. Arimura, Minoru Morita, Akihisa Kuriyama, Kazuhisa Koakutsu, Technology transfer and cost structure of clean development mechanism projects: an empirical study of Indian cases, Environmental Economics and Policy Studies, 19(3), 609-633, 2017.
6. Akihisa Kuriyama, Minoru Morita, Identifying factors for promoting renewable energy projects through the Clean Development Mechanism in China, India and ASEAN countries, Global Environmental Research, 21(1,2), 53-59, 2017.
7. 森田 稔，松本 茂，田崎智宏，省エネリベートプログラムの主観的割引率への影響：ヘドニック価格法による家電エコポイント制度の評価，環境経済・政策研究，7(2)，24-36，2014.

論文賞

受賞者氏名：橋本扶美**、高梨啓和*、中島常憲*、上田岳彦*、門川淳一*、宮本信一***、石川英律**

対象論文：イミダクロプリド-ジオール体（(N-(1-((6-クロロピリジン-3-イル)メチル)-4,5-ジヒドロキシイミダゾリジン-2-イル)デン)ニトラミド)の実環境試料からの検出と急性毒性評価, 33 巻 5 号 p.126-135(2020)

所属：* 鹿児島大学大学院理工学研究科, **いであ株式会社環境創造研究所, *** いであ株式会社事業開発本部

表彰理由：

本論文は、光照射によって生成するネオニコチノイド系殺虫剤イミダクロプリドの環境変化体の評価、実環境からの測定、並びに、水生生物への毒性評価を行っている。光照射試料及び実環境試料から環境変異体を検出したほか、イミダクロプリドが環境変化体に変化することによって毒性が低下する傾向にあるが、イミダクロプリドでは観察されない致死毒性が環境変化体の一つから観察され、注意が必要であることを明らかにした。このように、本論文では、光分解、現場測定、変化体を含めた毒性評価と幅広く評価しており、有用で完成度が高い。以上により、本論文は、本会の論文賞に値すると考えられる。



橋本 扶美
(はしもと ふみ)



高梨 啓和
(たかなし ひろかず)



中島 常憲
(なかじま つねのり)



上田 岳彦
(うへだ たけひろ)



門川 淳一
(かどかわ じゅんいち)



宮本 信一
(みやもと しんいち)



石川 英律
(いしかわ ひでのり)

受賞者氏名：山下奈穂*, 加用千裕**, 谷川寛樹*

対象論文：木造住宅と森林の木材需給を考慮した炭素ストックのシナリオ分析, 34 巻 4 号 p.184-195(2021)

所属：* 名古屋大学大学院環境学研究科, ** 東京農工大学農学研究院

表彰理由：

本論文は木造住宅と森林の将来炭素ストックに関するシナリオ分析を行っており、特に、木造住宅における木材需要が森林の木材供給に与える影響を考慮した点に特徴がある。木材の需要増と長寿命化によって木造住宅と森林の合計炭素ストックが大きくなること、並びに、長寿命化による炭素ストックの増加は耐用年数が長くなるほどゆるやかになることを明らかにし、炭素ストックの増加の観点から長寿命化と木材の利用拡大に関する展望を示した。本論文では、一つ一つの変数を丁寧に仮定、また検証しており、カーボンニュートラルの社会に向けて今後の発展が期待される有用な知見を提供している。以上により、本論文は、本会の論文賞に値すると考えられる。



山下 奈穂
(やました なほ)



加用 千裕
(かよう ちひろ)



谷川 寛樹
(たにかわ ひろき)